



▲できあがった字幕をメンバーで確認。最後の大切な作業です（障害者福祉センターあかみねで）。

かわちながの字幕サークル

外国語が分からない人のために外国映画に字幕が付けられるように、聴覚に障害のある人が内容を理解し、楽しむことができるよう、日本映画などの映像物にも字幕を付ける活動が全国的に進められていることを、みなさんにご存じですか。この活動に取り組んでいるのが、かわちながの字幕サークルです。

「聴覚障害者のためと思われがちですが、聴力の衰えた高齢者のためにも大切な活動です」と同サークルの北邑奉昭^{きたむらともあき}さんは話します。同サークルが活動を始めたのは、字幕活動が注目され出した平成16年。現在は毎週1回集まり、編集作業をしています。

日本語字幕は、ソフトを使って画像を見ながら音声をパソコンに入力し、タイミングを計りながら画像と同時に文字情報を画面などに表示させます。映画や家庭で撮影したビデオに字幕を付けるだけでなく、人形劇や演劇などで舞台袖に字幕を写すこともあります。時間のかかる作業が続くなど苦労することもあるという北邑さん。しかし、「観てもらった人たちの希望や意見をもとに、ドアの閉まる音などの効果音を字幕にしたり、難しい漢字にふりがなを入れたり、改善や工夫をしながら作業を続けています。字幕を観て喜んでくれる人たちの姿を見ると、やりがいを感じます」。

「今後は、字幕付きの映像を使って、老人福祉施設などで催しを開くなどの活動もしたいと思っています。そのためにも、もっと多くの人に日本語字幕の大切さを知ってもらい、活動を応援してほしいですね」。北邑さんは作業の手を休めて、最後にそう話してくれました。